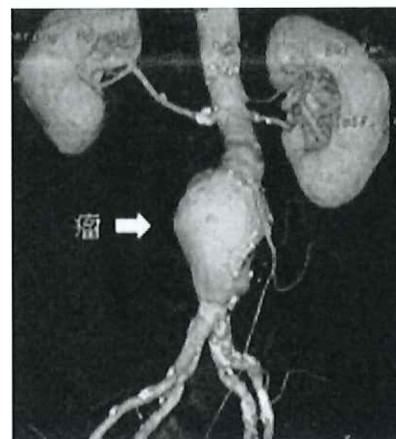


## 大動脈瘤のお話し

大動脈瘤(だいでうみゃくりゅう)は、聞きなれない言葉かも知れません。“やまいだれ”に“留”で、りゅうと読みます。癌とよく似た漢字ですが、瘤は血管の病気です。ガンと同様、無症状なことが多く、生命に直結する病気です。ただガンと違って突然、死にいたる恐ろしい病気で、英語で”silent killer”(沈黙の暗殺者)と呼ばれています。最近も、この大動脈の病気で、有名人が突然に亡くなったり、自動車の運転中に自損事故を起こしたニュースを耳にしています。

動脈は全身に血液を送るパイプで、大動脈は心臓から直接分岐した幹線道路です。大きさは、正常で約 2~3cm 程度です。大動脈にはいつも 120mmHg 程度の(穴が開けば1m以上吹き上がる)血圧がかかり、高血圧などにより動脈硬化が進行すると血管が大きくなり大動脈瘤となります。大動脈瘤はほとんどが無症状ですが、破裂すると突然死にいたる非常に恐ろしい病気です。症状が出る前に、予防的に外科的な治療が必要です。大動脈瘤径が胸部で 5 c m 以上、腹部で 4 c m 以上あれば破裂の危険性があり手術適応と考えられています。

外来でのCT検査などで簡単に診断がつきますので、心臓・血管センター外来に気軽にご相談してください。



## 大動脈瘤の原因と予防

代表的なものとしては、高血圧です。特に早朝の高血圧は危険であると言われています。また気温変化(寒冷刺激)や身体的・精神的なストレス、さらに

近年注目されている病気として睡眠時無呼吸などにより、大動脈壁に負荷がかかり、大動脈瘤や後述の大動脈解離を発症すると考えられています。また喫煙や頑固な便秘なども原因と考えられています。大動脈瘤・大動脈解離と診断された方は、日ごろの体調管理や減塩食などの食事管理が重要とされています。また適度な運動は良いとされていますが、病状によって運動の負荷の程度は異なりますので、主治医の先生と相談した上で、適正な運動（有酸素運動）を行っていただくのが良いと考えられています。

### 大動脈解離

大動脈の壁は内膜・中膜・外膜の3層構造になっています。大動脈壁のストレスにより、ある時突然、内膜・中膜に亀裂が生じ、中膜に血流が入り込み大動脈の壁が剥がれて行くもの（解離）です。心臓に向かって解離が進行したタイプ（スタンフォードA型）は、発症数時間で半数が破裂、その後も1時間に1%の頻度で突然死する恐ろしい病気で、診断が確定すれば、緊急手術が必要となります。一方、背部の胸部下行大動脈以下の解離（スタンフォードB型）は、破裂や臓器の障害の兆候がない限り、内科的な入院加療で経過をみるのが一般的です。近年では、スタンフォードB型に対しても発症後6ヶ月以内に、後述のカテーテル治療を使った治療を行い、解離性の大動脈瘤への進展を予防する有効な治療方法として発表されました。

